

年頭挨拶

衆議院議員 中谷真一

年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

まずは、昨年9月に経済産業副大臣の職を終え、次職は国会対策副委員長を拝命致しました。国会を前に進めるための交渉、調整を行う役割であり、骨の折れる所はありますが、国家国民のため全力を尽くして参ります。

さて、世界を取り巻く安全保障環境は悪化しています。ロシアのウクライナ侵略は世界に大きな衝撃を与え、その侵略は今もなお続いています。これに加えて昨年10月には、ハマスによるイスラエルへの奇襲攻撃に瑞を発して、イスラエル、パレスチナ戦争が勃発しました。この文章を書いている今も、ガザ地区で多くの命が失われています。

私は昨年6月、イスラエルに出張しました。この時はイスラエルの防衛産業、サイバーセキュリティなどについて現地要人とさまざまな意見交換を行いました。この際、イスラエルの防衛装備庁にあたるマファートという機関に行った時のことです。そこで意見交換をした幹部は最初に今のイスラエルの現状を映像にしたので見て欲しいとのことでした。その映像はロケット砲が多数、飛来し空襲警報が鳴り響き、悲鳴とともに逃げまどうイスラエル市民の映像でした。この映像をさしてその幹部は「これが10年前のイスラエルだ。」と言いました。「そしてこれが今のイスラエルだ。」と言った後に流れた映像は、アイアンドームというアンチミサイルシステムで飛来したロケット砲を迎撃する様子を見ながらパーティーをしているイスラエル市民の姿でした。周辺諸国に対して圧倒的軍事的優位性がそうさせていると感じました。

さらに、この出張においてイスラエルからパレスチナ（ヨルダン川西岸地区）、ヨルダンに車で移動しました。この時も「危険ではないのか。」と現地の方々に問うた時の答えは「イスラエルはかつてないほど、周辺国と関係が良い。アラブ連盟と今後協定を結ぶことになっている。よって、ますます安全性は高まる。だから今のイスラエルーパレスチナ間は車で移動しても心配はない。でも一応防弾車にしておいた。」というものでした。

この3か月後にハマスの襲撃があったのですから、状況がこれほど、短期間で一変した事への驚きと油断は禁物であるということ強く感じました。

ただ非常に不思議なのは、世界の中でもトップクラスの対外諜報機関モサドをもってしてもハマスの奇襲攻撃を探知できなかったのかということ。直前にはエジプトから情報提供があったが無視したとの報道もあります。これに対して専門家は情報収集においてヒューミント、人を潜入させての情報収集を減らし、シグント通信傍受に頼りすぎていたのではという意見があります。さらに、ハマスはどのようにして大規模な軍事作戦を秘匿できたのかと言われていますが、やり取りを傍受されないようにということで通信手段は伝書鳩を使ったのではと言われるほどです。情報収集ができていればもっと違う状況があったのではないかと思います。

この戦争によってイスラエルとアラブ連盟は破談したといえ、中東が安定するのではという期待は打ち砕かれました。さらに、ハマスを倒すためとのパレスチナ（ガザ地区）への侵攻は人道上の

問題からイスラエルは世界中からバッシングを受けています。これらのことは中東とイスラエルの利益を大きく損なうことになるでしょう。モサドを持つイスラエルでさえこのような事が起きるのを目の当たりして対外情報機関を持たない日本への危機感を改めて募らせています。

日本周辺の安全保障環境は日に日に悪化しています。日本の為政者は情報なしで大局的な判断ができるのか、未然に危機を防止できるのか、今こそ対外情報機関の創設に動かなければならないと強く思います。日本の政治体制から見ると大統領制の米国よりも、同じ議院内閣制を採用する英国をモデルにすべきでしょう。独立機関ではなく、外務大臣の下に組織し、NSCはじめとする官邸と連携するのが適しています。ただ問題になりそうなのは、省庁間の主導権争い。警視庁、公安調査庁、防衛省、外務省、内閣情報調査室に情報収集機能があります。対外情報という観点では本来、外務省が主導権を取るべきだと思います。さらに語学が堪能で現地に溶け込めることができる人材を育成し、情報機関同士の世界ネットワークに入っていくのに適しています。

世論の反応も大きな懸念材料です。特定秘密保護法でも苦労したのを思い出します。日本が情報機関を作り、世界のインテリジェンスコミュニティから信頼を得て機能させるのには時間がかかります。人によって「30年かかる」という専門家もいます。ただ、始めなければ完成はない。完成していなくても今の状況よりはより良くなるのは間違いなく、急がなければなりません。

また、2020年半ば頃からは米英の高官から「日本をファイブアイズに加えシックスアイズにするべきだ。」という声が高まり始めました。中国の台頭に対応するため米英を中核とした同盟は従来の方針を変換し「日本の情報体制の強化」を強く求めています。これは日本にとっての好機でもあります。

ロシアがウクライナ侵攻して、第2次世界大戦以降最大の戦争が始まりました。そして今度はハマスのイスラエル奇襲に端を発し、第4次中東戦争以降最大の戦争が中東で起きています。これらは複雑に絡まり合い、さらに世界を不安定にしています。我々の東アジアも例外ではありません。米中の覇権争いはより具体的になってきています。本来の安全保障は戦争を未然に防ぐことであり、軍事の利用は最後の手段です。常にあらゆることを想定し、しっかりと備える必要があります。それが抑止力になります。

結びに安全保障の現場を経験した者として国家、国民の安全のため全力を尽くすことをお誓いするとともに皆様に引き続きのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。